

「ハッピーメッセージ」から始まる地域の絆

秋田県仙北郡美郷町

地域の状況

- ◆ 秋田県仙北郡美郷町 人口 22,788 人、世帯数 6,758 世帯
- ◆ 小学校 7 校（児童数 1,058 人）、中学校 3 校（児童数 609 人）
- ◆ 児童委員数 68 人、主任児童委員数 3 人

活動内容等

1. 児童委員を活用した主な事業紹介

(1) 生まれてまもない赤ちゃんに贈る「ハッピーメッセージ」

美郷町民生児童委員協議会（以下、町民児連）では、平成5年から児童委員が新生児を対象に全世帯を訪問し、子どもの名前の印鑑と、メッセージカードを届けている。

美郷町では、地域ごとに3歳未満児の子どもとその保護者を対象とした「地域子育て支援拠点」として、「ひまわり広場（千畑地域）」、「あそびにおいて（六郷地域）」、「子育て広場ひだまり（仙南地域）」を設け、子育て親子の交流を図っているが、ハッピーメールを届ける際に、この「地域子育て支援拠点」の案内、乳児健診のスケジュール、町が発行している子育て情報紙等も合わせて配布している。

また、児童委員が訪問した際、虐待のおそれがあるなど気になった家庭については、要保護児童対策地域協議会につなげている。

担当地区の児童委員が自己紹介を兼ねて訪問することにより、子育て家庭と児童委員との顔合わせの機会となり、これから地域で子育てをしていく家庭を、地域で見守っていくという体制づくりを目指している。

(2)「地域子育て支援拠点」における児童委員の活動

美郷町では、地域の子育て親子の交流を促進し、子育て中の親の孤独感や不安感を解消するため、「地域子育て支援拠点」として、ひろば型1か所（あそびにおいて（六郷地域））、センター型2か所（ひまわり広場（千畑地域）・子育て広場ひだまり（仙南地域））を実施し、育児相談、育児講座、年間を通じて様々なイベントを行っている。年齢の低い（4か月頃から）子どもを連れて参加もあり、子どもの遊び場だけでなく、母親にとって育児を共感しあえる仲間づくりの場になっている。イベントの際は、もちろんのこと、児童委員も定期的に参加し、子どもたちと触れ合い、遊びを行うとともに、地域の小さな問題を含め、親切に相談にのっている。

(3) ブックスタート事業を通じて

絵本の読み聞かせを通じて赤ちゃんのことばと心を育むことを目的に、平成17年度から、「えほんからはじめよう」（ブックスタート事業）を実施している。対象は4か月の乳児と保護者で、乳児健診の待ち時間などに児童委員や図書館ボランティアによる読み聞かせの後、対象の親子に町が選んだ絵本3冊をメッセージを添えて贈っている。

「本」を読むことが目的ではないので、本に興味を持たない親子に対して、無理強いをするのではなく、なるべく赤ちゃんや保護者に話しかけるよう努めている。

この事業は、保健師や図書館（室）、子育て支援センター、児童委員、図書館ボランティア等が協力して行っているものであり、子育てをする親子を「地域」と「行政」が一体となって応援している。

(3) 「子育て支援者連絡会」で連携のとれた子育て支援を実施

平成19年度から、児童委員、児童館職員、地域子育て支援拠点の担当者、放課後児童クラブの職員、ボランティア、美郷町役場職員等子育て支援に関わる者で構成する「子育て支援者連絡会」を立ち上げた。年3～4回開催し、関係者間の交流を深めるとともに、お互いの支援の理解を図っている。この連絡会がきっかけでお互いのイベントの開催時には協力する関係も生まれてきている。

(4) チビッコフェスティバルでの地域との関わりと世代間交流

毎年9月には子ども達を対象とした体験型イベント「チビッコフェスティバル」が開かれている。これは公園内に“巣箱づくりなどの”創作コーナーや“なわとび、石けり、お手玉、あやとり”などの昔なつかしい遊び、消防車などに乗車できる“救急コーナー”など20種類程のコーナーを設け思い思いに遊んでもらうという趣向である。もちろん先生は児童委員や地域の大人や高齢者、3世代が集まり楽しい1日をすごしている。

主催者の青少年健全育成町民会議と一体となって地域の子育てに取り組んでいる。

(5) 学校との連携

年2回、小学校・中学校と担当地区の児童委員による連絡会を実施している。学校側の出席者は、校長、教頭はじめ教職員、子どもたちの様子について話し合い、情報交換を行っている。

2. 活動のきっかけ・経緯

核家族化や地域社会との関係も変容してきたことにより、母親の孤立化が目立ってきている。そんな母親達の育児不安や悩みを軽減したいという思いで相談業務のための体制は整えたものの、相談に来たいのに来れないでいる人がいる。

出産後まもないうちから、人生経験豊富な児童委員が身近な存在となり、子育て中の母

親達を支えることができたらということで、「ハッピーメッセージ事業」が始められた。

この児童委員の訪問により、気になる家庭については関係機関につなぐことにより虐待防止になる、乳児健診の案内や子育て中に利用できるサービスを情報提供することができる等、二重三重の効果を得られているものと考えている。

また、「地域子育て支援拠点事業」については、国庫補助事業として実施しているが、児童委員が参加することにより、担当地区の児童委員と知り合う機会を与えられることとなる、気軽に相談できる場となり、母親達も相談しやすい、相談内容によっては、必要に応じて行政につなぐことができる等の理由から、児童委員を積極的に活用している。

「ブックスタート事業」についても児童委員が参加していただくことにより、同様の効果が得られるものとの考えから御協力いただいている。



子育て支援拠点事業で…
なごやかな雰囲気でのおやつタイム

3. 事業実施にあたって工夫した点、苦勞した点、立ち上げ時のポイント・問題点

美郷町は平成16年11月に千畑町・六郷町・仙南村の2町1村が合併し誕生したまだ新しい町であり、そのため、他の多くの事業と同様、子育て支援に関する事業についても、合併前に旧町村でそれぞれ実施していた事業のうち最も有効であると思われる事業を美郷町全体で実施している。

旧町村間で事業の内容、利用率等にあまり差が出ないように横の連例を図る必要があり、町民協であれば総会のほか合同研修会、また、地域子育て支援拠点であればクリスマス時の

共同開催など各地域間の横の連携を図った。

また、子育て支援者連絡会の存在は、この同一事業の地域間の連携のほか、他の事業者との連携にも役立っている。



子育て支援拠点事業で…
児童委員も積極的に関わっています

こんな思いで取り組んでいます

- 乳児健診やブックスタートは赤ちゃんの成長とともに、その関わりを深め、母親達とのコミュニケーションの場として大切にしている。とくに児童委員としての役割や存在を知ってもらいたい大事な場所であるとともに、子育ては大変なこともあるが、そんな時には子育て広場のことも紹介しつなげている。
- 赤ちゃん誕生おめでとう（ハッピーメッセージ）は、お祝いを述べることで終わる、一過性の活動に留まらないよう、児童委員のPRと気軽に相談できるよう信頼関係を築くことに努めている。
- 近頃は人間関係が煩わしいとか、仲間に入れぬ母親が多く、また、活動に興味を示さない、持たぬ母親が多く導き方に苦慮している。児童委員のお節介な声かけを心がけている。
- 個人情報やプライバシーへの配慮はとても大事にしている。情報が入りにくい、できる範囲内で見守りをしている。何か起きてからではと心配している。

子育て支援は、行政側が何から何までやってくれることは有り難いのですが、それではお母さん達の自立にはつながりません。自立的パターンに導いていくことが大切、事業をとおしてお母さん達ができないことを児童委員や行政がお世話できるように心がけています。

主任児童委員 熊谷さん